

協働通心

令和7年度 7月

第1号

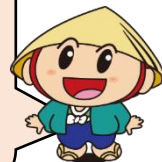
発行元

草津市教育委員会

生涯学習課

『協働通心』は、地域協働合校（小・中学校や地域で、社会の変化に対応するために、こどもと大人が世代を超えて知恵を出し合い、学び合い、協力して共に活動する取組）の活動状況を、広く市民の皆さんにお知らせする情報紙です。

今回は、新堂中学校の取り組みについてお知らせします！



新堂中学校「世界農業遺産琵琶湖システム ESD 講話&フィールドワーク」

新堂中学校では、今年度から学区内の世界農業遺産である、魚のゆりかご水田やえり魚を活用した学びを始めました。

こどもたちは滋賀県農政課の方にお話を聞き、実際に魚を育む田んぼに行き、志那中環境を守る会の方と一緒に魚道でバケツ2杯分もの生き物をつかまえ、種々の生き物と出会いました。滋賀県漁業協同組合志那支部の漁師さんからは、えり魚について教えていただき、琵琶湖で獲れる魚種や漁獲量について質問したりした後、朝獲れた湖魚のつくだ煮や、ゆりかご水田米のおにぎりを試食し、新鮮な魚と環境に配慮したお米のおいしさに感激しました。ふるさとの豊かさを五感で感じました。

今後ますます持続可能性が求められる社会の担い手となるこどもたちは、今日の学びを得て新しい目で地域を再発見し、豊かな水や生き物が息づく日常と環境文化を守っていってくれることでしょう。



南笠東小学校「みな小ベジマルシェ」

南笠東小学校のみどり学級では、地域の方々の協力を得ながら、学校にある畑で育てた玉ねぎとジャガイモを収穫し、「みな小ベジマルシェ」として地域まちづくりセンターで販売を行いました。こどもたちが大きな声で呼び込みを行ったおかげでたくさんの地域の方に足を運んでいただき、ボランティアである「みな小おうえんたい」の皆さんの手助けもあり、野菜は見事に完売しました。最後には、活動を手伝ってくれた皆さんに感謝の気持ちを込めて、お手紙を渡していました。

購入した人からは「立派な野菜育てたなあ」「この野菜を使って料理を作ったら写真見せに行くな」などの嬉しい声掛けもあり、この活動を通して、地域の方との交流を深めることができました。

